

大草谷津田いきものの里 自然観察会

クモは森の芸術家

和仁道大（千葉市）

日 時：2012年10月21日（日）10：30－12：00 天候：快晴

参加者：大人8名、子ども1名

担当指導員：芳我めぐみ・和仁道大

当日は絶好の行楽日和で近隣の公民館では文化祭などのイベントが花ざかりで、予想通り参加者はいつもより少なかったが、地上近くのクモの網を観察するにはちょうど良い人数であった。

入口広場を一周するだけで多くのクモの網が見られた。この時期に大きな馬蹄形の網を張っているジョロウグモ。スプレイで水をかけるときれいに網が浮いて見えた。枠糸、横糸などに触ってもらい糸の強さや粘りのあるのはどの糸かを確認してもらった。ジョロウグモの網は大きいので横糸は半分ずつ網を張り替えるので、その境目がはっきりと見られた。（数日前に下見をしたときは小雨が降っていたが、ジョロウグモの網はいずれも片側半分の横網は張らずに省エネしていた。）次に見つけたのは中型の垂直円網で中央に細長いゴミがついて、クモはそのゴミの中に隠れていた。称してゴミグモ。灌木の上部には棚網がいくつも見られ、網の奥は漏斗状になってそこにコクサグモが潜んで獲物を待っていた。網に触ってみると粘らないことも分かった。

谷津田の方に下りる小径に入ると、薄暗い崖地の下部には小さな垂直円網があり、中央には枯葉が巻かれてぶら下がっていた。葉の中にはクモが隠れていた。このクモの名は習性の通りハツリグモであった。また、小さな水平円網の中央に白いウズが浮いて見えるウズグモも多数確認された。一方小さな垂直円網の中央部に白い逆「の」の字に見えるヨツデゴミグモも見られた。地上数十センチの所に三角形の変った網を見つけた。スプレイすると扇の形が浮き上がった。扇の要の所にオウギグモが潜んでいた。

谷津田の斜面林ではどう見ても松葉が糸に引っかかっているとしか見えないオナガグモがいた。参加者に触れてもらうと脚が現れてびっくり。このクモは一本線の条網を張り別のクモを食べる。次に水平円網を見つけた。中央にはオオシロカネグモがいた。捕まえて背中を観察するとシロガネ（白銀）色に輝いていた。ジョロウグモの網に仁丹のような白銀の粒のように見えるシロカネイソウロウも見られた。10月も下旬になると田んぼにはナガコガネグモは少なく、茶色い壺型の卵のうが見られた。ほかにはオオトリノフンダマシやチリイロウロウグモの卵のうも見つかった。

お母さんに連れられて参加した小1の女の子はクモ嫌いだと母親が心配していたが、観察しているうちにクモに慣れて、ジョロウグモを手で触れるようになって、クモ好きになっていた。大草谷津田いきものの里はクモ一つ見ても、いろいろな網を張るクモがいっぱい棲んでいる自然の豊かな環境だということを実証されたと思う。